

## 【論文要旨】

愛知教育大学大学院 社会科教育専攻 清水 康行

### 第I章 序論

これまで農業地理学の分野においては露地栽培における研究は暖地・高冷地・寒冷地の3区分において多く研究されてきた。またその3区分は輸送園芸においても盛んであり、愛知県田原市では施設園芸による輸送園芸地域が形成されている。しかし、季節によって産地が変化する露地栽培は端境期ができてしまい、端境期においては国内産の露地野菜の供給が減少してしまうのが特色であった。そこで増加したのが輸入野菜であり、その輸入野菜の用途の多くは加工用食材として使用されている。加工用食材を扱った研究は、従来の地理学では少なく、また国内で加工用食材を生産している産地についての研究もまだ少ない。そのため、加工用食材の中でも用途の高いキャベツに着目し、加工用に使われるキャベツの大産地である愛知県田原市を対象地域とした。そこで加工用あるいは業務用で使用されるキャベツが栽培されるにあたり、田原市の加工・業務用キャベツ栽培の特色を解明するとともに、田原市で加工・業務用キャベツ栽培が発達している要因を明らかにすることを目的とした。

### 第II章 食の洋風化における加工・業務用食材の需要の増加

加工・業務用食材が増加する要因として外食産業をはじめ、コンビニエンスストアの増加が挙げられる。そのため、日本の食生活が野菜中心型から肉類の消費が増加し、日本の食生活が洋風化していることを明らかにした。その中で外食産業やコンビニエンスストアの店舗数も年々増加していることを明らかにし、更にはコンビニエンスストアの日配食品の売上額を挙げ、加工・業務用食材の重要度が増していることを明らかにした。

### 第III章 田原市におけるキャベツ栽培の変遷

キャベツの産地を全国で見ると、愛知県は日本一のキャベツ産地であるとともに、愛知県内において田原市のキャベツ収穫量は県内一位を誇っている。したがって田原市は日本一のキャベツ産地である。また愛知みなみ農業協同組合（以下、JA 愛知みなみとする）では近年加工・業務用キャベツを積極的に生産・出荷していることから、まず農家が加工・業務用キャベツを栽培するにおいて、非常に適した環境であることを人口・土地利用・農業経営・気候の面から分析した。また田原市において加工・業務用キャベツが栽培されるようになった背景を知るには、田原市におけるキャベツ栽培の変遷を解明する必要があるため、田原市の高度経済成長期からの露地栽培の変化を分析した。

#### 第IV章 田原市における加工・業務用キャベツ栽培の現状

田原市の加工・業務用キャベツが発達した過程には、田原市を管轄しているJA 愛知みなみによる加工・業務用キャベツ栽培に特化した組織が設けられたことが大きい。また環境保全型農業を推進し、JA 愛知みなみに所属をしている農家の多くがエコファーマーの認定を受けている。そのため加工・業務用キャベツ栽培においても、農薬回数削減や周囲からの農薬飛散の防止を徹底的におこなっており、消費者や加工業者からの信頼を得ている。そのため加工・業務用キャベツの栽培発達の背景には、JA 愛知みなみや田原農業改良普及センターによる安心安全供給への体制が整えられていると明らかにした。また、加工・業務用キャベツ栽培をしているつコン倶楽部の実態調査をおこない、加工・業務用キャベツの収穫量が年々増加している背景には経営者が広大なキャベツ畑を経営していることが分析結果から分かった。農機械や労働力等様々な面においての分析もおこなった。

#### 第V章 田原市における加工・業務用キャベツ栽培の発達要因

加工・業務用キャベツ栽培をおこなっている部会員に更にアンケート調査をおこない、加工・業務用キャベツ栽培をおこなっている要因を分析した。通常キャベツよりも単価が低いにも関わらず加工・業務用キャベツの収穫量が増加しているのは、安定収入・経費削減・省労力によるものが大きいことが明らかになった。そして加工・業務用キャベツを栽培している組織部員の多くが今後も加工・業務用キャベツの作付面積の規模を拡大していきたいと考えていることが明らかとなった。

#### 第VI章 結論

食の洋風化・簡素化に伴って加工・業務用食材が重要性が増している中、愛知県田原市の加工・業務用キャベツ栽培が多く生産できているのは、田原市のキャベツ栽培に適した環境と借入面積が多くあること、全国規模に比べて田原市には農業に従事した世帯が多くあることが明らかになった。更にJA 愛知みなみの環境に配慮した農業経営が、加工業者等の信頼を得ることができており田原市の加工・業務用キャベツ栽培の発展に繋がっている。栽培している世帯においては、労力・経費・安定収入の3要因により加工・業務用キャベツを重視した栽培経営がおこなわれていることが明らかとなり、更なる規模拡大を目指している。今後も加工・業務用食材は消費拡大が見込まれており、加工・業務用キャベツも需要拡大すると予想される。更なる発展が見込まれる一方で生食用キャベツとの単価の差の拡大、加工・業務用キャベツの発展に伴う他産地の

加工・業務用キャベツ栽培の参入等の問題も浮上してくる。そのらの問題に対する産地の対応を具体的に示していくことが今後必要がある。